

健康通信

大腿骨近位部骨折に対する治療方針



リハビリテーション科部長医師

星野 啓介

大腿骨近位部骨折とは？

大腿骨近位部骨折は、50歳以下では交通事故などの高エネルギーによる骨折が多く10万人あたり10例以下とごく稀な骨折ですが、60歳以上で徐々に増加し70歳以上で急増します。大腿骨近位部骨折が高齢者に多いのは年齢とともに骨質が悪くなり骨粗鬆症がすすむこと、また身体能力が徐々に低下し段差にたまずくなどごく小さな外力などでこの骨折は発生してしまいます。2042年のピーク時には年間約32万人まで増加すると予想されています。



どのような治療を行うか？

小牧市民病院整形外科の目標として、身体機能を維持するため可能な限り早期に手術治療を行い離床をすすめていきます。内科的に問題がなければ当日、遅くても翌日には手術を行う準備をしています。しかし、高齢者が多いため様々な病気を合併している場合が多いのが現実です。当院では総合病院である強みを生かし内科や麻酔科などの医師と連携し早期手術を実現しています。

どのような手術療法か？

(1) 大腿骨転子部・転子下骨折に対し当院では90年代前半からガンマネイルという髓内釘をいち早く導入し使用しています。最近では、骨折部の不安定

性など症例ごとに各々最適なインプラントを使用し安定した術後成績を獲得しています。

(2) 大腿骨頸部骨折は関節内骨折であり、骨頭を養っている血管が損傷している可能性があります。その評価は難しい為、当院では骨折の転位が少ない場合は血管が残存していると判断し骨接合術を施行しています。転位が大きい場合は血管が損傷されて骨頭壊死発生の危険性が高いと判断し人工骨頭置換術を施行しています。

術後は？

手術翌日から全身状態と相談しながらリハビリテーションを開始します。特に早期離床、立位歩行訓練の重要性を感じ積極的に進めています。また、周術期合併症である術後せん妄や深部静脈血栓症などに対しては医師だけでなく多職種で評価し予防しています。

退院は？

当院は急性期病院であるため約10日間で退院となります。その後歩行能力、日常生活動作の獲得のため、ほとんど患者様は回復期病院へ転院していただいています。2006年から尾張北西部大腿骨頸部骨折地域連携パスを運用しスムーズに連携できるようにしています。

information

臨時職員募集の

お知らせ

市民病院臨時職員

◆看護補助業務

勤務開始日 平成28年9月1日(木)

勤務 原則週5日 午前8時30分～午後5時

(土・日・祝・年末年始含む)

資格/賃金 ホームヘルパー2級(介護職員

初任者研修 取得者/時給1040円

(土・日・祝・年末年始は1090円)

経験・資格不問/時給940円(土・

日・祝・年末年始は980円)

人員 5人程度

申込み 8月12日(金)(必着)までに、履歴

書(写真貼付)を郵送または直接

病院総務課

※後日面接予定